

鈴鹿市地域包括在宅医療ケアシステム勉強会委員会 多職種より各部会への質問・疑問への回答一覧

1 【ケアマネジャー部会】

Q1. 訪問看護依頼にあたり困ったことがあれば教えてください。

- A1・訪問看護事業所によって連携を積極的にして下さる所に偏りがちになってしまいます。
「緊急時訪問看護加算」をとっているのに、電話や訪問にご対応頂けない事があり悩む事もあります。
- ・利用料金の説明が利用者側に伝わりきっていない事がありました（予想より高額）。
 - ・主治医の選定で困った事があります。

Q2. コロナ渦で担当者会議を書面で済ませているので、多職種のディスカッションが出来ない事で不便に思っていることはないですか。

- A2・書面のみであることによって一方的なやりとりになってしまいがちと感じます。
- ①情報共有する手間は増えた。
 - ②ディスカッションから見える課題や共通理解は難しくなっている。
 - ③ニュアンスの違いなども出てきてしまう。そのことで利用者への不利益につながる恐れがある。
- ※対面が必要なケースは対面で行っています。対面での会議が必要な場合はケアマネに伝えてくだされば対応します。・オンライン担当者会議開催をしている事もあります。

Q3. 訪リハを利用するにあたって何を重視していますか。

- A3・「評価」を重視
- ①住環境や屋内、家の周りを移動する動作
 - ②身体面・精神面の活動
 - ③卒業後自宅内環境での動作
- ・「リハビリ内容」を重視
- ①自宅の環境に適合したリハビリ。（自宅で行う訓練の意味を理解して頂けているか）
 - ②呼吸のリハビリ
 - ③嚥下のリハビリ等、個別に合わせた訓練が出来る療法士がいること。
- ・専門職の視点から「〇〇が必要」と提案して頂ける事。他事業所への指導的役割。療法士さんのコミュニケーション能力。など

Q4. 訪リハ利用を「3ヶ月で頑張りましょう」など、期限を設定することに対してどう思われますか。

- A4・期限を設定（卒業）する事で効果的な場合もあると考えます。何を目標して頑張るかを具体的に示して、卒業後のビジョンが利用者さんに伝わるとモチベーションアップにもつながり、なおいいと思います。スモールステップを設定し、クリアしていく過程を設定・提案頂けるとありがたい。また、卒業後の評価をフォロー願いたい。そして、「維持」のため、継続が必要な場合もあることをご理解ください。

Q5. 以前ケアマネをしていましたが、対応困難な家族を担当し苦労しました。家族対応のポイントを教えてください。

- A5・対応困難と感じるのは、こちらサイドの見方かと考えます。何をもちょう対応困難かを

分析することも重要です。色々な人がいること。それぞれに家族関係・価値観がある事を理解し、寄り添う姿勢を見せる。家族の強みや良さを見つける。相手の立場に立って考えるようにする。又は仕事と割り切る事。などでしょうか。

※家族が病的であればケアマネだけで抱え込むのは不適切だと思います。医療など、多職種でサポートする事が必要かと思います。

Q6. 市内事業所のうち各部会への参加、加入率はどの程度でしょうか。

A6・会員数177名（R3.11 末時点）鈴鹿市居宅56事業所、亀山市居宅19事業所。

Q7. どのくらいの頻度で各部会を開催されておりますでしょうか。

A7・ケアマネ協会鈴亀支部 月1回

Q8. 各部会にて取り上げられている課題、現在抱えている重点取り組み項目などがあれば教えてくださいませんか。また、部会としての取り組みや課題、組織体系や部会開催報告などについて、どこかで公開されておりますでしょうか。

A8・介護支援専門員の資質及び社会的地位向上に努め、専門的知識、技能を研鑽し、介護保険制度が利用者主体の制度として確立されるよう、公平・中立なケアマネジメントに努め、日々の実践・研修を通して鈴亀地区の保健・医療・福祉の増進に寄与することを目的とする。（規約第3条）

・公開は会員へ向けてのメールを現在調整中です。

Q9. 部会内容の情報発信希望です。

A9・公開は会員へ向けてのメールを現在調整中です。

Q10. 「介護度が出てからしかベッドを入れることができない」と、言われる方と、「すぐに入らせていただける」方がおられます（ターミナル期）。何か違いがありますでしょうか。

A10・介護度（要介護2）が出ていなくてもベッドは入れられます。介護度は要介護2以上、それ以外の方は「軽度者」と表現します。軽度者の方であっても、

①自費ベッドによる貸与（ベッドの種類は自由に選択出来ない場合があります）。

②軽度者申請（介護保険同等）による貸与、（医学的な所見に基づき主治医の確認・署名）。

③認定調査の調査項目のチェックによる貸与の対応ができます。

※ケアマネジャーの知識不足が原因。

Q11. コロナでヘルパー事業所から派遣ができなくなったらどのような流れで対応されますか

A11・BCPとして、利用者一人一人について緊急対応の想定はしています。（スクリーニングの実施）。

- ・サービス内容（身体・生活）によって違うものの、①中断出来るサービスならば中断。
- ②家族等の協力で乗り越える。③現在利用中のサービスで代替出来る内容はないか検討。
- ④他の訪問介護事業所又は新規で他のサービス調整。⑤利用者や家族、関係者の知恵を出し合って対応。⑥ケアマネが実働する事もあるかもしれません。

Q12. ヘルパーに「これくらいはしてほしい」ことは何かありますでしょうか。

A12・ヘルパーさんへの苦情が出た時に、まずは管理者がきちんと対応してあげてください。

- ・ひとりの利用者に複数名関わって頂く場合の、支援内容のズレやかかる時間の差を最小化して頂けると利用者さんにとって有益です。
- ・こちらから依頼した支援以外に、利用者さんにとって不足している点はないか。新しい課題などはないか。などの視点で観察をお願いしたい。電話だけでなく、モニタリング表を上手く使って、報告頂くのもありがたいです。

Q13. 管理指導報告書に記載している内容で重視する点はありますかでしょうか。

A13・薬が変わった理由と新しく出た(増えた)薬を服用していく上での注意点(状態変化の可能性 飲む時間の変更)。面談時の利用者や家族の様子。利用者や家族の、お薬への考え方や受け止め方、理解度など。

Q14. 服薬状況の悪い患者には「服薬」というリハビリ項目があってもよいと思うのですが、いかがでしょうか。

A14・まずは服薬がどうしても難しいのかをアセスメントして多職種でのサービス担当者会議で検討出来ればと思います。

- ・訪問看護等で、「利用者様の薬の管理方法を一緒に考える、はさみで切るなど練習する」ことは現時点でも可能だと思います。
- ・具体的な環境整備のほかに自己の能力を高めるリハビリテーションがあるのであれば、薬剤師さんと一緒に検討させていただけると嬉しいです。

Q15. ケアプランを作成する上で心掛けていることは何ですか。

A15・利用者がどんな生活をしたいか。どう生きていきたいか。利用者が望む生活の方向性。しっかりアセスメントをし、デマンドの中からニーズを見極める事が大切。潜在的な問題(例えば虐待など)もあることから、ケアプランには載せなくても多職種連携が必要な場合も出てくると考えます。

Q16. バイタルリンクの活用は何%くらい進んでいますか。

A16・介護支援専門員への認知率は亀山市100%、1ケアマネが有する件数に対しては1割～2割程度の利用。ターミナル時の利用がほとんど。

Q17. 薬剤師から情報提供する場合、毎回必要な情報は何でしょうか。

A17・利用者や家族へのアドバイスの内容、処方内容(変更)、副作用、残薬状況、処方時の工夫(一方化、色分け、薬袋への記載内容等)。

Q18. 認知症の方への対応で、特に気を付けていることはありますか。

A18・利用者の気持ちに寄り添う、自尊心の尊重(認知症の方に限った事でもありませんが)。

～栄養士さんからの質問だったので～

- ・栄養について気を付けている事

- ①食べる回数やタイミングに固執しすぎない。
- ②利用者を支援される方や家族へのフォロー
- ③栄養面のアセスメント（一日の摂取カロリーや水分量、口腔内の状態、嚥下の状態、実際に食べている物を確認、食事摂取動作、姿勢、本人や家族の食に対する知識・認識。など）

Q19. 担当のケアマネさんが分からないと言われてしまった場合、どう対応するのが良いでしょうか。

A19・利用者さん等に聞いても担当ケアマネの名前や事業所が「わからない」という場合は、介護保険被保険者証の確認。担当事業所の印字がされておりますので、お問い合わせ頂き、担当者をご確認ください。

※質問の内容の受取り方が違った為、下記の回答も合わせて報告します。

- ・担当のケアマネが、事業所さんからの質問に対して「わからない」という場合は、通常その分野について詳しい方や、関係機関のご紹介をします。それも出来ないケアマネであれば、ケアマネの事業所管理者に相談するか、包括支援センターさんにご相談を・・・。

Q20. 各職種の具体的な業務内容、連携において栄養士に気づいて欲しいこと、期待すること等教えてください。

A20・現在の鈴亀管内では管理栄養士による居宅療養管理指導事業所が限られているので、今後増えてほしいですし、気軽に栄養改善等が必要な方の相談が出来る窓口があるといいなと考えます。嚥下困難な方が少しでも食事を楽しみたいと思う時に、例えばSTさんと連携しながら食事内容や調理方法の工夫が出来れば、利用者さんの自立した生活を多職種で支えていけるのではないかと考えます。